

平成28年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 山形大学		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 山形大学農学部食料生命環境学科教授 渡部徹 〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23 Tel/Fax: 0235-28-2907 Email: to-ru@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp
代表者氏名 山形大学農学部食料生命環境学科 教授 渡部徹		(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称 担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
部門名 (1)報道部門 (2)新聞報道部門	事例名 下水処理水再利用による飼料用米栽培に関する研究	
事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい)		
<p> ■概要：下水処理水に残留する肥料成分（窒素やりん）を水田灌溉に有効利用することで、低コストで高品質な飼料用米の栽培に挑戦している。すでに土木学会の賞を受賞する成果を挙げている（右写真）が、平成28年度には、鶴岡市およびJA鶴岡との共同研究として実規模水田での実証実験を開始し、最終的には資源循環システムの実現を目指している。 </p> <p> ■広報：研究によって引き出される下水道の様々な可能性を、共同研究者として巻き込む方法で他業界へ深く伝えた。平成27年11月には、BISTRO下水道推進チームの会合を開催し、研究内容を発信するとともに、地元の有名シェフを招くことで一般市民の注目を集めた（下左写真）。それをきっかけに、本研究が農業関係の専門紙（日本農業新聞）や雑誌（農耕と園芸など）で紹介された。平成28年5月の水田の開所式では、早乙女姿で田植えを行い、その様子を新聞等で紹介することで一般市民に親しみやすい形で広く下水道の新たな役割を広報した（下右写真）。今後も収穫時などに同様のイベントを行い、継続して広報していく予定である。 </p> <p> ■開所式：平成28年5月24日、鶴岡浄化センターに作った圃場に、関係者及びマスコミを集めて開所式を行った。 </p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;">  <p>土木学会東北支部技術開発賞の受賞を関係者等に広く紹介</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>BISTRO下水道推進戦略チームの第8回会合を鶴岡市で開催！（写真は水の天使と奥田シェフ）</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>開所式の様子を、一般紙をはじめ、専門紙、地元紙、地元テレビ局などさまざまなメディアで紹介！（5月25日山形新聞）</p> </div> </div>		
天気にも恵まれ、終始和やかな雰囲気では進んだ。飼料用品種「べこあおば」の苗を手植し、その様子は多くのマスコミに撮影された。JA鶴岡の榎本理事は「土づくりに必要な肥料代を抑えることができれば生産者にとって大きなメリットになる」と語り、研究に期待を寄せた。その後に行われた勉強会では、処理水以外の下水道資源の活用にもついて議論された。		
エントリー事例の特徴（施策等そのもの特徴ではなく、施策等を発信する広報戦略及びその効果が優れていると考えている点を明記願います）		
<ul style="list-style-type: none"> 研究は他業界（JA鶴岡や地元企業）も巻き込んだ共同研究とした。 水田の開所式には、一般紙をはじめ、専門紙、TV局（NHK他）など10社近くのマスコミが取材に訪れた。 開所式では、早乙女姿で苗を手植えし、その様子を新聞等で紹介することで、一般市民に親しみやすい形で広く下水道の新たな役割を広報した。 JA等も含めた勉強会を行い、処理水だけでなく熱利用など下水道の更なる利用に向けた活発な議論を行った。 ユネスコ食文化創造都市・鶴岡の食や地域振興との連携も強く、今後さらに他分野への広がりが期待できる。 		
付属資料の提出	(あり) ・ なし (どちらかに○)	